

平成29年度

事業計画

社会福祉法人 やまなみ会

障害者就労センター

ウィルアークス

《 目 次 》

1. は じ め に
2. 施 設 理 念
3. 運 営 方 針 及 び 重 点 目 標
4. 各 事 業 計 画
5. 緊 急 時 に お け る 対 応 方 法
及 び 非 常 災 害 対 策
6. 苦 情 解 決
7. 情 報 開 示 と 個 人 情 報 の 保 護
8. 職 員 処 遇

平成 29 年度 ウィルアークス 事業計画書

1、はじめに

- ① 利用者の方々の賃金向上
- ② 施設内における作業量の安定化
- ③ 利用者の確保（就労移行事業 0 名利用）

29 年度の事業計画としては、上記の 3 点を重点課題とし改善出来る様、現行の事業の拡大と共に、印刷事業の受注拡大・新規事業開拓を行い、安定した作業量を確保することにより高い賃金を利用者の方にお支払いし、経済的自立が出来る様支援を行う。また、就労移行事業新規利用者獲得のために、相談事業所・支援学校等との連携強化を図る。職員の支援・生産・コスト意識の向上を目指し、施設内研修の開催・参加し、また売り上げの向上・経費削減にも取り組み安定した経営、利用者の方々の賃金向上につなげて行きたい。その他の課題としては、高齢化などで過疎化が進む地域の中で、今まで以上に近隣の農家・農業法人・牧場などへ労働力を提供することや印刷等で地域に貢献し、利用者の方々が地域の一員と認めてもらい、事業所自体も地域になくてはならない事業所となるような事業運営を行いたい。

2、施設理念

ウィルアークスは、障がい者の皆様に対し一般企業に比べ何ら損色ない明るい作業環境と設備を提供し、一人ひとりのニーズを的確に捉え、個々のニーズに合わせた福祉サービスの提供を積極的に取り組んでいく。また個人の尊厳を第一に留意し、経済的自立の為に賃金確保はもちろんのこと、地域生活能力や、身体機能の維持向上などの個々のライフスタイルに合わせた具体的支援やサービスの提供を個別の支援計画の基行って

いく。

また支援する職員及び利用社員と共に、「共に支え、共に生きる」という理念のもとに付加価値の高い運営を目指す。

3、運営方針及び重点目標

当事業所は、雇用関係の基に利用者への就労支援を行っており、体調管理や労働衛生管理面に十分な配慮し環境整備に努め、生産活動を通じて就労支援に取り組んでいく。

支援内容は個々のアセスメントによる課題やニーズを的確に捉え、その課題解決に向けた目標設定を個別支援計画で作成し、サービス管理責任者を中心に支援サービスの充足を計る。支援実施に当たっては個人の尊厳を第一に個々が望むライフスタイルの構築の為に、それぞれの課題やニーズを解決に向けた目標を定め取り組んでいく。様々な要需に対応できるように職員朝礼・終礼やケース会議等を積極的に行っていく。

利用状況

【就労継続支援 A 型】

定員 20 名 現況 23 名利用中

【就労移行事業】

定員 6 名 現況 0 名

① 平成 27 年度より就労移行事業を始めるも利用がない状態が続いているため本年度は、利用に結び付けることが出来るように市町村・各種学校・支援センター等とも連携を図りながら利用に向けた活動を行っていく。

又、就労継続支援 A 型からの就労移行に向けたプログラム作りも行い、一般就労への道を繋げられるよう支援していく。

就労継続支援 A 型は、稼働率 100%をキープできるよう努め、障がいの多様性に対応するべく、職員の専門性を向上し研修や学習会等で学んだ知識を活かし、社員の皆様へ

の賃金アップを行う。

② サービス提供日は、月曜日から金曜日を中心に年間変形労働時間とし、就業時間は 8:30 から 17:30 までの 7.5 時間を基本とする。作業内容としてはプラスチック粉碎事業・製函事業を中心とする加工事業。施設外支援・清掃役務提供事業・樹脂選別事業を中心とするその他の事業を展開する。作業配置に関しては、本人の要望を聞き、能力に応じた配置を行い、作業評価や適性能力により個々に支援を行っていく。

③ 利用社員の健康管理については、日々の健康管理は社員朝礼時に行い、年度ごとの定期健康診断を実施し健康管理に努める。

④ 事故防止及び防災対策については、ヒヤリハット報告書の活用により日々自己点検を行い事故防止に努める。防災対策は 29 年度の消防計画に基づき利用社員・職員への周知と教育を行うと共に避難訓練計画に沿って避難訓練を実施する。(別紙参照)

⑤ 個別支援計画の策定については、利用社員のニーズや課題を主体としながら、具体的な支援計画書をサービス管理責任者が作成し支援会議を実施する。職員で周知徹底しながら個別に支援していく。

⑥ 支援者でもある職員には、事業所内外の福祉に関する研修会を始め、受注先における作業研修等も積極的に参加させることにより業務上必要な知識や技能の習得に努め、サービスの向上を計る。(県外の研修会については前年度同様、事業所の経営状況にて参加の有無を決定する) 職員朝礼・終礼を毎日実施し、支援内容や作業の申し送り等を充足させ、作業日報や各種作業面の管理帳票等の記載を義務付ける。その中でチーム

ワーク能力や専門的知識の共有化・資質の向上をはかる。

【 重点目標 】

- ① 就労移行事業の利用者確保。
- ② 経費削減・品質の向上に努め、コスト・質のよい作業意識を持って業務に従事する。
- ③ 新たな作業種の開拓に取り組む。

4、各事業計画

当事業所における事業経営は、社会経済の動向に大きく影響される形であり、平成28年4月の熊本地震の売り上げ影響は、回復傾向であるが、未だ収益を回復できていない事業がある。収益の柱とする為に、26年度より開始した印刷事業が安定しておらず、印刷事業含めた各事業安定した作業量の確保が目標となる。賃金向上も厳しい状況であるが、事業所内で行う作業を中心に新規事業の開拓・現行事業の拡大を行い、賃金の向上を目指す。就労移行では、平成27年度8月より新事業として取り組んでいるが、未だ利用者がおらず、利用者獲得が目標となる。

① プラスチック粉碎事業

前年度5月より、受注数が三分の二程度に減っており、本年度も現行品の受注は厳しい見通しである為、新規品の受注取り込みを行う。新気品取り込みに伴い現在所有している

粉碎機の改良を行い、現在生産できなかった製品も取り組み粉碎受注の幅を広げていく。

また、粉碎以外の生産作業も模索し、積極的に取り組む。

作業場レイアウトを見直し、生産の効率化・生産量増加の対応を行う。

② 製函事業

昨年の4月の地震のため、2ヶ月ほど受注がストップする。8月頃より工場の生産が元に戻り、本事業所での生産も再開されてきた。受注数としては前年に比べると少なめではあったが、ほぼ例年通りの受注数ではあった。今年度も引き続き、生産性の向上を目指し、利用者様に日々、安定して作業を行っていただけるよう作業時間・作業量等に考慮した作業環境づくりを行っていく。

③ 清掃事業

公共施設・一般企業、法人・個人住宅等のワックス清掃作業及び近隣の牧場や畜舎内などの清掃作業を行う。今年度も積極的に営業活動を行い、受注拡大を計る。

また、前年度より始めた壁紙・クッションフロアの張替えの精度を向上させ受注拡大を計る。

④ 印刷事業

現状の法人内各事業所、産山村公共施設への営業活動をおこないつつ、新規顧客の開拓に努める。また、これまで取り組んできたコスト削減・良品質を意識しながら、印刷事業に取り組む。

他の印刷業者の作品を参考にしながら当事業所での新しい製品作りにも挑戦する。顧客のニーズに対応できるよう担当者のスキルアップの為に研修等にも参加を行う。

5. 緊急時における対応方法及び非常災害対策

緊急時における対応として利用者に病状の急変が生じた場合は、速やかに医療機関への連絡を行う等の必要を講じるとともに非常災害対策について消火設備その他非常災害に際して必要な設備を設け、非常災害に関する具体的な計画を立て非常時に備え関係機関への通報及び連絡体制を整備し従業者に周知する。非常時災害に備え定期的に避難、救出その他必要な訓練を実施する。消防訓練は年2回とする。

(※別紙参照)

6. 苦情解決

利用者様等からの苦情に対していち早く適正な解決に努め、苦情解決受付者および苦情解決責任者の設置を掲示し、苦情解決への仕組みを利用者様並びに御家族の皆様へ周知推進致します。

苦情受付担当者	職員 1 名
苦情解決責任者	管理者 1 名
第三者委員会	外部有識者

1. 申出人のプライバシーの保護に努める。
2. 正確・迅速・丁寧な対応を心掛ける。
3. 当事者にとって適正かつ効果的な対応を考え、誠意を持って対応にあたる。
4. 最後まで申出人の話しを聞き、分からないことがあれば適宜質問し、問題点の把握に行う。
5. 苦情内容は、経過記録書に記入し、申出人や関係者の秘密は厳守する。

7. 情報開示と個人情報の保護

施設経営の透明性と福祉サービス事業公開の為、ホームページ及び掲示板による情報開示を行う。

当事業所で知り得た個人情報はサービスの利用目的の範囲内で行い、その範囲を超えて使用しない。又、業務を遂行するに当たり、個人情報を第三者に提供する必要がある場合は原則として本人の同意を得て提供を行う。

尚、情報の管理・取り扱いについては適正かつ慎重に行う。

8. 職員処遇

福祉分野の制度改正や障がいの多様性により専門的知識の向上が必要となるため施設運営及び利用者様へのサービス提供の向上を行うために学習会や各種主催の研修会への参加を行う。

参加予定研修

対 象	参 加 研 修
管理者	全国就労センター長研修会
管理者・職員	日本セルフセンター研修大会
管理者・職員	全国社会就労センター総合研究大会
管理者・職員	九州授産施設研究大会
管理者・職員	熊本県障害者虐待防止権利擁護研修大会
管理者・職員	工賃向上支援研修会
管理者	社会福祉法人労務研修会
管理者	社会福祉法人法令研修会
管理者・職員	社会福祉法人会計実務研修会
管理者・職員	福祉サービス苦情解決事業研修会
職員	熊本県サービス管理者研修会
職員	熊本県相談支援従事者初任者研修会
職員	食品管理衛生者講習会
※ その他就労事業関係研修会及びセミナー等参加予定	